

公的年金シミュレーターの運用状況について

厚生労働省年金局総務課年金広報企画室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

公的年金シミュレーターの概要



例えばこんなシミュレーションも可能です！

働き方・暮らし方の入力

働き方・暮らし方①

働き方・暮らし方 ?

自営業・フリーランス (国民年金第1号)	会社員・公務員 (厚生年金)
パート・アルバイト (国民年金第1号)	パート・アルバイト (厚生年金)
配偶者の扶養 (国民年金第3号)	学生・働いていない (国民年金第1号)

期間 ?

45 歳～ 59 歳まで



現在、35 歳で、配偶者の扶養の範囲内で働いていますが、今後、扶養を外れて働くと年金はどう変わりますか？



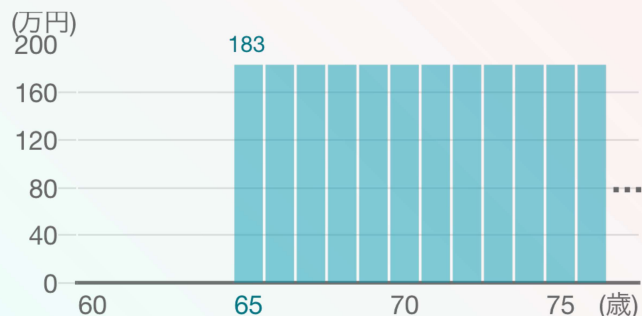
60 歳から 65 歳まで会社員として働いた後、67 歳までパートとして働いたら、年金はどれくらい増えますか？

公的年金シミュレーターの機能追加（税・社会保険料額の試算）



使い方動画 Q&A

あなたの年金見込み受給額



+ 国民年金保険料の免除期間の入力欄を開く

試算する

+ 税・社会保険料額の試算を開く

試算結果の出力

CSV形式の出力になります。

出力されたCSVは利用者ご自身の責任でご活用ください。

📄 試算結果を出力

— 税・社会保険料額の試算を閉じる

年金受給開始時点の 税・社会保険料額の試算

(令和4年度の東京都新宿区の参考例)

所得税	0 万円/年
介護保険料	8 万円/年
国民健康保険料（税）	8 万円/年
住民税	2 万円/年

合計 18 万円/年

2023年4月より、年金受給開始時点の税・社会保険料額（令和4年度の東京都新宿区の参考例）を試算できる機能を追加。

税・社会保険料率等は市区町村で異なるため、試算結果は概算であるが、公的年金の手取り額の一例をイメージ可能に。

公的年金シミュレーターのプログラム活用に関する実証実験

■ 実証実験の内容

- 厚生労働省が公的年金シミュレーターのソースコード（プログラム）を公開し、民間事業者は自社が運営するアプリなどのITサービスに組み込めるかどうか検証を行った。
- 参加企業は、プログラムを組み込むに当たって生じた技術的課題について、「成果報告書」を通じて厚生労働省に対して報告を行った。

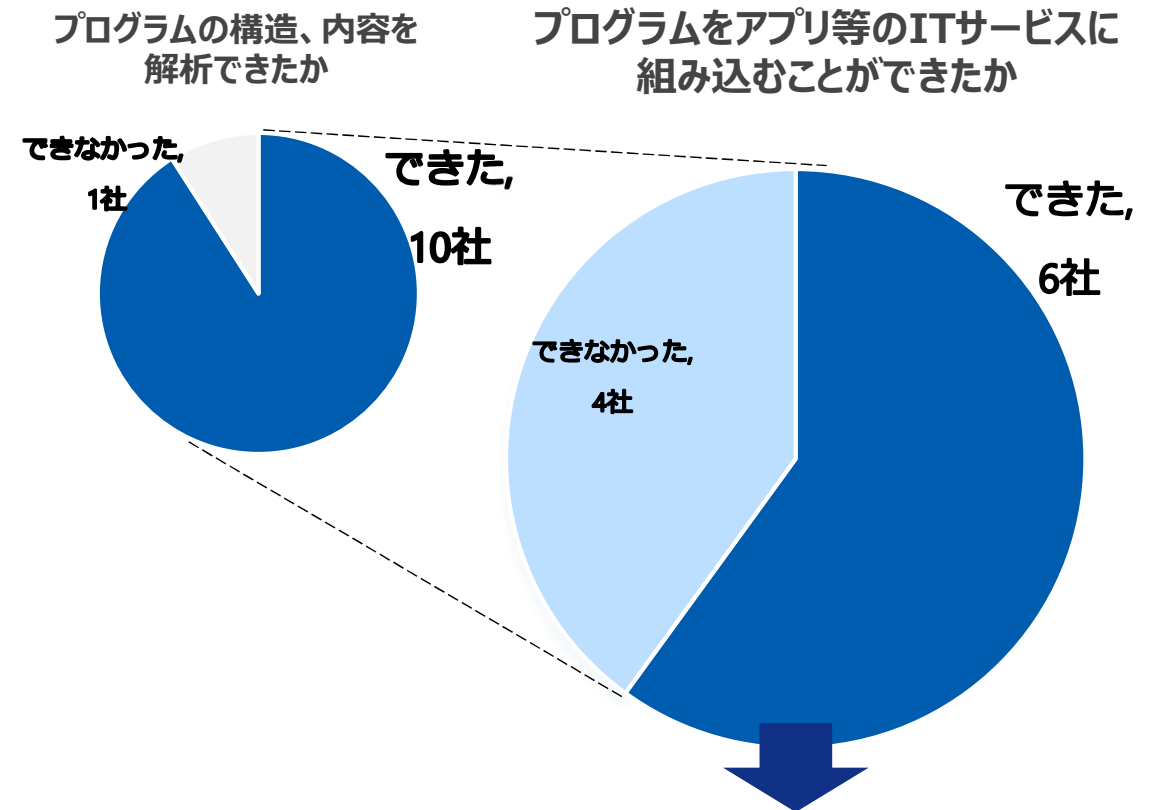


■ 実証実験を通じて得られた方向性

ソースコードを公開することで、民間企業の創意工夫によって、年金額試算機能を組み込んだ独自のITサービスが開発されることが期待された。

また、民間のITサービスの発展に伴い、様々な属性の利用者が年金額試算をすることが期待された。

■ 実験参加企業が作成した「成果報告書」の集計結果



公的年金シミュレーターの機能を搭載したアプリ等のITサービスのリリースを「予定」「前向きに検討中」とする民間企業が4社あった

公的年金シミュレーターのプログラム公開

公的年金シミュレーターのプログラム公開について

1. 内容

厚生労働省は、令和4年4月25日、「公的年金シミュレーター」の運用を開始しました。本サービスは、ねんきん定期便に記載されている二次元コードをスマホで読み取ることにより、将来の年金受給見込額を簡便に試算できるもので、公開以来約330万回（令和5年7月時点）のアクセスをいただいています。

今般、公的年金シミュレーターと、民間事業者が運営するサービスとの連携を進展させるため、**令和5年7月21日から「公的年金シミュレーター」のプログラムを民間事業者に公開**します。

2. 利用条件等

プログラムの提供を受けるためには、別添「『公的年金シミュレーター』のソフトウェアのプログラム利用規約」への同意が必要です。

プログラム等利用者は、**プログラム等の利用に係る企画書の案（任意様式）を提出いただき、厚生労働省との事前打合せを経たのち、別添「利用申請書」によりプログラム等の利用申請を行う**ものとします。利用申請を受けた厚生労働省は、民間事業者にプログラムを公開します。

3. 申込方法

厚生労働省との事前打合せを希望するプログラム等利用者は、次の電子メールアドレス宛に、①所属、②担当者氏名、③電話番号、④メールアドレス、⑤プログラム等の利用に係る企画書の案（任意様式）を送付します。

電子メールアドレス：kourou_nenkin@mhlw.go.jp

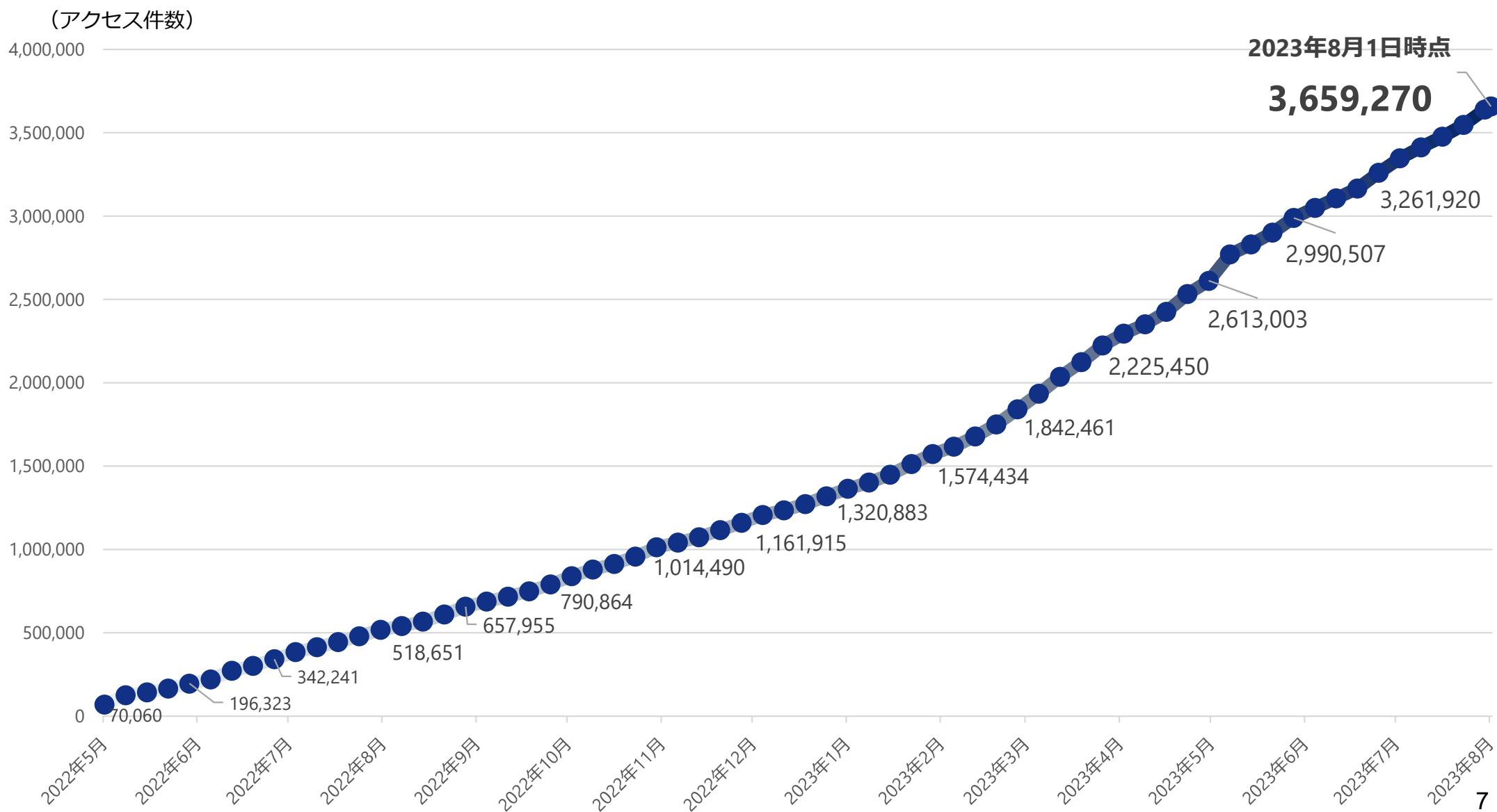
2023年7月21日より、公的年金シミュレーターのプログラム等を民間事業者に公開開始

利用申請を行った民間事業者に対してプログラム等を提供

【令和5年7月21日（金）プレスリリース】
「公的年金シミュレーターのプログラム公開について」より抜粋

公的年金シミュレーターの利用状況

公的年金シミュレーターへの合計アクセス件数は、2022年4月25日の運用開始以降、順調に伸びており、350万回に到達。今後も、アクセス件数の伸びが想定される。



公的年金シミュレーターに関する今後の論点

■ 運用実験の参加企業からの要望

老齢年金に加えて、遺族年金、障害年金の受給見込み額を試算できる機能が欲しい。

ねんきん定期便と同様の情報を、インターネットを通じて取得する仕組みが欲しい。

■ 今後の利用促進に向けた論点

公的年金シミュレーターの利便性を更に向上させるために、どのような機能を追加することができるか。

既に利用された方のニーズの把握や今後の利用見込み者の隠れたニーズをどのように把握し、公的年金シミュレーターに反映するのが望ましいか。

公的年金シミュレーターのアクセス件数を更に向上させるため、どのような広報を行うことができるか。

公的年金シミュレーターのプログラムが公開され、民間企業との連携が開始されたが、今後、どのように民間企業と協力して老後の生活設計の検討を推進していくべきか。

公的年金シミュレーターの利用場面や想定される利用者をどのように把握し、それらにあわせた効率的な広報をどのように進めていくべきか。